

入賞作品紹介

⑬

小学生の部親子賞 入選

読む知るが E! 新聞

私と新聞

福島市あかし
金介小5年 明石 侑子さん

私の新聞との出会いは、毎週日曜日にある「ましがいさがし」でした。祖母は日曜日の新聞にのる、数字のパズルが大好きです。私はパズルをやっている祖母のとなりでぼーっと見ていました。ルールもよく分からず、それを解いている祖母を感心しながら見ていると、ふと、ましがいさがしが目に飛び込んできました。

ましがいさがしは、できることもあって、妹ときそい合うようにさがしたことを覚えています。そのくらい、ましがいさがしが好きです。ある日、家族から「侑子の名前、のってるよ」と言われ、本当かと思いつつ新聞を見たら確かに私の名前がのっていました。

担任の先生に言われて書いたのを覚えていますが、そのときに書いたところが新聞にのっていたのです。はずかしい気持ちもありましたが、新聞にのるとやはりうれいでした。

それから、私の知り合いが新聞にのったこともありました。書道で県で一番になった子が新聞にのっていたのです。その展覧会では、約百五十点もの作品が展示されていて、初日にはたくさんの方が見に来ていたと書いてありました。

このような出来事から、私は新聞に少しずつ興味を持ち始めました。これから私がしていく

新聞の力と生かし方は大人次第

父 明石 重尋さん

新聞を読むとき、教育に関することや、子どもの表彰、スポーツでの活躍に関する記事をよく見かけます。娘と同年代の子が活躍する記事について、新聞記事を見ながら、話題にすることがあります。例

ある小学生向けの新聞が、あるので、それを読んでみようと思います。今年、平成三十年を、自分のページから読んでみようと思いを広げる第一歩の年にしたいです。

て受け取り方が違う場合があるのではないかと思うことがありますが、考え方の一つは、新聞記事に載っている人のように活躍したい、目標として頑張りたいと思う人です。もう一方は、自分と比べてしまい、すごい人が周りにいるのに、自分は...と思ってしまうことです。これは何とも残念な考え方はです。

ただ読み与えるだけでは、子どもの受け止め方も様々ですし、実際に、どうせもっと頑張れってことでしょ？と自分を卑下する傾向がないわけではないのです。ここに親など大人の関わりが必要を感じます。特に小学生は、その後の心の方向性を決定づける大事な時期です。で、親の積極的な関わりが大事になってくると思います。